

十六. 庄内も近代化の道を歩む

洲到止・島江共同墓地に大阪相撲で張出し大関になった一乃濱乙吉の墓（写真）があります。一乃濱は明治元年、洲到止で生れ、高橋乙吉といたしました。幼少のころから身体が大きく、力が強く、成人してから猪名川部屋に入門、明治二十七年に入幕、明治二十九年に大関に昇進しましたが、その後引退し、三十九才で亡くなっています。

明治二十二年（一八八九年）の町村制施行により、庄内八ヶ村は大阪府豊能郡庄内村となり、村役場は現在、庄内小学校建っている東南隅に設置されていました。庄内は大正八年の「庄内全図」を見ても、神崎川沿いに酢酸工場があり、阪急電鉄宝塚線・神戸線がありますが、駅がないことが確認できます。庄内はまだまだ、農村地域でした。徐々にではありますが、大阪にも近い関係からか住宅や人口が増えていきました。

大正五年（一九一六年）に「庄内村誌」が刊行されました。その当時の村長は岸岡政吉氏です。村誌には当時の庄内村の状況が詳しく書かれています。昭和十一年（一九三六年）に庄内村は庄内町になりました。

しかし、不幸な戦争の足音が近付いてきました。牛立は戦災に遭いましたし、軍需工場も爆撃に遭い、学徒要員で徴用されていた女学生が爆死しました。



一乃濱乙吉の墓